

平成26年7月9日

報道関係者 各位

公務員宿舍新営工事に伴う島原城発掘調査結果の現地説明会について

標記の発掘調査結果について、下記のとおり現地説明会を行いますので、取材方よろしくお願いいたします。

記

日 時 平成26年7月13日（日）10時30分～12時

場 所 島原図書館東側発掘調査現場

※雨天の場合は、島原図書館視聴覚室でパワーポイントを使用して説明を行います。

内 容 発見された遺構

① 島原城大手門の石垣（根石部分）

※大手門の枳形を構成する石垣の一部

② 堀水排水の溝

③ 暗渠

④ 石組堅坑

※②から④は、弘化四年から嘉永元年（1847年～1848年）の二ノ丸石垣補修工事の際に築かれた、堀水排水のための構造物

⑤ 石組溝



有明海にひらく湧水あふれる  
火山と歴史の田園都市 島原

担当：島原市教育委員会

社会教育課 宇土 靖之

電話：0957-63-1111（内線）651 社会教育

E-mail：yasuyuki-u@city.shimabara.lg.jp

## 島原城 公務員宿舍新営工事に伴う発掘調査結果概要

平成 26 年 7 月 9 日

島原市教育委員会社会教育課

公務員宿舍新営工事に伴う発掘調査で、①島原城大手門の北端の石垣と、弘化四年から嘉永元年（1847 年～1848 年）の二ノ丸石垣補修工事に併せて築かれた②堀水排水の溝と、③暗渠、④石組堅坑、地表面に降った雨水排水の為の⑤石組溝が確認されている。

### ○確認された遺構

#### ① 島原城大手門の北端の石垣

石垣の根石（最下部の石材）が確認された。大手門の枡形を構成する石垣の一部分で、隅角部分から南方向と西方向に石材が並べられ、「森岳城図」（島原大變以後に作成された絵図の写し）と配置が一致する。

#### ② 堀水排水の溝（以下、溝）

二ノ丸石垣補修工事の記録に「松平勘解由（島原藩家老）の屋敷（現：島原図書館）前」から大手門まで「水抜水道堀切」を築いたという記録があり、確認された南北方向に伸びる溝は位置的に一致する。また、溝を北方向に延長した堀石垣には V 字状の積み直しが見られるため、この部分から大手門方向へ堀水の排水を行ったと考えられる。

#### ③ 暗渠

溝の最下部（現地表から 2m～2.8m 下部）に構築されている。後述する石組堅坑の石材の隙間から北方向に伸びる暗渠が確認されたため、石組堅坑の南北の堆積土を掘下げ、いずれからでも暗渠の天井石が確認された。天井石の隙間から暗渠内部を撮影し、暗渠が南北方向に伸びることを確認した。内部は縦横 90 c m の空間がある。また、前述の堀石垣の下部には南方向に伸びる暗渠も確認され、調査地で確認された暗渠に繋がると考えられる。この付近は、近年まで宅地として使用され、堀が陸地化しているが、堀石垣下部の暗渠から堀水が存在する北方向にコンクリート製の土管が設置されており、宅地として使用され始めた頃は、暗渠の存在が知られていたものと考えられる。堀石垣下部の暗渠には水が確認できるが、調査地で確認された暗渠には水が確認できないため、この間で暗渠が詰まっている可能性が高い。

暗渠は堀水の恒久的な排水を意図して溝を埋め戻す際に築かれたものと考えられる。

#### ④ 石組堅坑

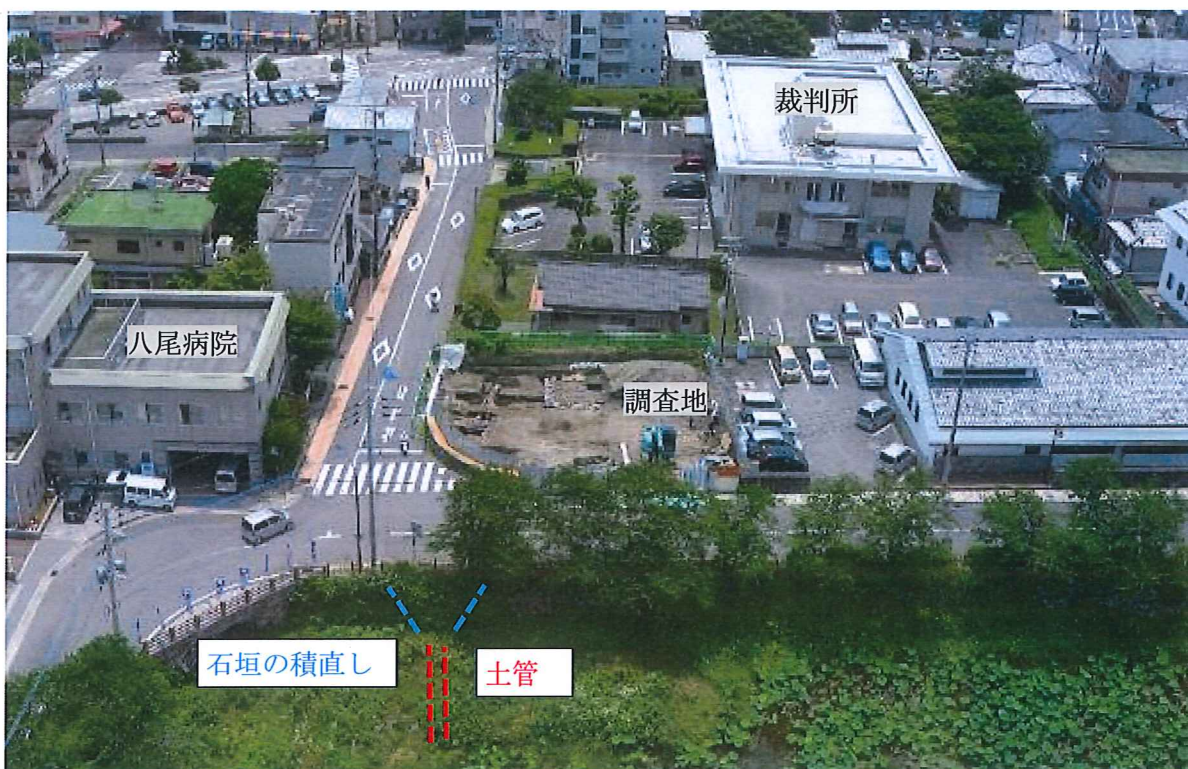
今回の調査の経緯となった石組の構造物。石材を方形に組み、上部には長方形の石材が「蓋状」に置かれていた。東側の石材は工事により崩壊している。内部の土砂は、その際混入したもの。最下部付近は、工事によるセメントが混入している。削岩機で 50 c m ほど掘り下げたが、石材崩落の可能性があるため掘削を中止している。現時点での高さは 2.7m ほどである。暗渠と接続しており、暗渠内の土砂除去など管理や暗渠から排水を溜める溜枡として井戸的な利用を行うための構造物と考えられる。

#### ⑤ 石組溝

城郭内に降った雨水の排水溝と考えられる。鉄砲町（武家屋敷）の水路のような構造であるが、石材の間は目張り等されておらず、城内に降った雨水などの下水を流すためのものと考えられる。

#### ○まとめ

以上の遺構が確認されており、①島原城大手門の北端の石垣（石塁）は、大手門内部の空間構成が客観的に確認でき、②堀水排水の溝、③暗渠、④石組堅坑は幕末の土木工事の様子が、発掘調査の結果、文献資料、堀石垣の状況から確認でき、長崎県内の近世城郭で堀水を流した遺構（暗渠）は現在まで確認されておらず、全国でも数少ない事例と考えられる。島原城の文化財指定を考える上でも重要な遺構と判断される。



調査地遠景（航空写真） 北から撮影



調査地遺構配置（航空写真）

（※空撮時点では暗渠は地表面から確認できない）